

令和7年度第1回タウンミーティング 会議録

(23日 質疑応答部分)

日時：令和7年5月23日(金) 19:00～20:30

場所：K'BIX まえばし福祉会館 多目的ホール

参加人数：85人

参加者1) ①上下水道の整備方針について

②前橋テルサのサウンディング型利活用調査について

今聞いたように予算の厳しい中、昨年度はリフォームと蓄電池の補助をいただき、誠にありがとうございます。先日、浄水場にも見学に行かせていただいて、水道局の方に色々説明いただき、勉強になりました。それに絡めてですね。4月の広報にある予算の中の、企業会計の水道事業と下水道事業、今、埼玉では下水道の関係で地盤沈下したり、水道管が破裂して、要はインフラの水道関係が全国どこも老朽化しているので、前橋としては同じような轍を踏まないように、上水道と下水道に対してのインフラを今後どうしていくのかという方針みたいなものを言える範囲で結構なので教えてほしいです。

それがまず一点と、前橋テルサの件について、先日解体の方向で話が始まったんですけども、残した場合の再利用の意見というのを民間の方に募集中だと思います。それもまだ結果が出てないので、言える範囲でご回答いただければと思います。

市長)

ありがとうございます。水道の関係は埼玉で事故があってから、市民の皆さんからもたく

さん意見を頂いています。意見というのは、予算の区分とか、色々なことに予算を使うのですけれども、見えないところ、道路の下とか、生活に関わるインフラの更新だとか整備はしっかり予算を使ってくださいねというような応援するような意味でも、1月以降たくさん頂いています。前橋市ですけれども、ご心配頂いたような水道管の老朽しているところから順番に更新しているのですけれども、元々ですね、点検をしっかりしてなるべく予防じゃないですけれども、さきに更新するというのをやっけていまして、AIを使った老朽管の調査というのを全国に先駆けて前橋は令和5年からやっけています。そういった点検もいろんな技術を使って、問題のあるところは早く更新、整備をするという形でやっけています。

1月の埼玉の八潮市の事故を受けて、大きな水道管については改めて点検をさせていただいて、現状では崩落したり陥没したりするような場所はないということで、しっかり点検をしながら更新を進めているところになります。皆さんもご存知のように、この4月から値上げになって、負担を頂いているところなのですけれども、しっかりとですね、頂いた水道料金を使ってインフラの管理をして、前橋のおいしい水がどこでも安心して皆さんに使っただけのように整備をさせていただいているところになります。

また、当たり前に出てるのですけれども、それを支えるためにすごく大きなお金がかかってるんだとか、夜中、漏水した場所を点検するのは、昼間は車がいっぱい動いてたりして、点検出来ないの水道局の職員の方が深夜に、調査に行って漏水箇所の工事をしたりしているので、支えてくれる人がいるんだよというのも伝えていけたらと思っています。前橋市の水道に関しては水がどこから来てどこへ行くのかということで、広報の3月号に特集を組ませて頂いたので、前橋の広報のバックナンバーもHPから見れるので皆さんに改めて見ていただけたらと思います。

2つ目、前橋テルサに関してですけれども、サウンディング調査ということで、前橋テルサは令和5年から閉鎖になっていて、今使われていないのですけれども去年の段階で、このまま使えないのであれば、市としては解体することを検討したいと方針を発表させて頂きました。ただ、解体したあと何に使うんだということもありますし、解体しないまま活用されるような民間の企業が出てくれば、それは拒否する訳でもないの、改めてサウンディング、市場調査をするってことで、今年の5月までさせてもらいました。今結果を取りまとめているところになりますので、こういう案がありましたよというのはそんなに遠くないうちに、市民の皆さんにお示しできると思いますのでもう少しお待ちください。その時は私も

Instagram とかでこういう結果になりましたよというのをお伝えしたいと思います。

参加者 2) 福祉のまちづくり計画について

福祉のまちづくり計画について質問させていただきます。この計画に基づいて、各自治会が中心になってまちづくり計画を進めていると思うのですが、この内容を読みますと、特に年配、年上の方のための施策みたいに感じております。私の意見としては、0歳児から全体が対象なんじゃないかと考えています。昨今、育成会が活動を休止しているということがありまして、4人という少ないボランティアのメンバーがですね、去年から子どもたちの活動できる場所を提供したりしてきたんですけど、今年、やはり予算が必要なので、自治会の方にまちづくり計画の方に入れてほしいという申込みをしたら、これは年寄りのための計画だから若い人のための予算はないと断られました。市長の意見をお聞きしたいと思います。

市長)

ありがとうございます。すごくいい質問をしていただいたなと思います。やっぱり福祉は高齢者だけではないですし、障がいのある方だけでもないですし、赤ちゃんからどの世代の方にも必要なテーマだと思います。で、みんなが支えあえる町を作るのが福祉のまちづくりという意味では一番大切だという風に私も思います。福祉のまちづくり計画と恐らく自治会の、今の運営の仕方と、色々それぞれの地域でやり方があるのかなと思うんです。例えば、それぞれ皆さんが住んでいる町内の自治会で世代間の交流事業というので、子どもも高齢者も一緒にやりましょう、居場所を作りましょうとか、生涯学習ということで、住民の方みんなが学べる機会を作りましょうというのをやっているところがあって、そこには当然子どもという対象も入れられると思うんです。なので、色んな地域でやってるやり方も参考にしてもらいながら、各町内でみんなが携われるようなやり方をしてくれると嬉しいなと思うのですが、そういった事例の共有も今後、自治会長の皆さんが集まる場があるので、お伝えしていければと思います。

参加者 3) ①公共交通について

②タウンミーティングの託児について

私は3歳と6歳の子どもを育てております。小川市長に変わってから、子どもに関する施策が多くなって、大変感謝してるところではありますが、同時に毎週のように全国的にニュースに取り上げられている、車による子どもの事故に大変心を痛めております。技術的なものもありますし、行政がというよりは、民間の企業で車の開発とかというところもあると思いますが、インフラ、バスなどの公共交通の整備というところもちろんですが、どうしても車がないと生活が出来ないという高齢の方は非常に多いと感じています。これまで前橋の発展に貢献頂いた、そういった世代の方を助けられるような取り組みにも期待したいと思っていますし、巡り巡ってそれが子どもも含めて市民を守ることに繋がると思っています。そこに関する考えをお聞かせ頂きたいです。

もう一点はお願いなんですけども、今日の託児を使わせて頂いて参加することが出来ました。去年も同じように託児を使っているんですけども、託児の年齢が6歳までになってまして、来年私は子どもがいたら1時間半小さい子を連れてこの場に座っているのは難しいと思っているので、是非その年齢をもう少し上げていただければと思います。よろしくお願いします。

市長)

託児の年齢はちょっと検討させて頂いて、できるだけ叶えられるようにしていけたらなと思っています。子どもを預かってもらえないとこういう会に参加できないという人が多いと思います。今日は手話通訳の方に来て頂いてますけど、通訳があれば参加したいという方もいるんですけどもこういうのが無いとそもそもの機会が減ってしまうので、参加する側の意見というのを聞かせていただけると大変ありがたいなと思います。

一点目の子どもの事故の関係であったり、高齢の方が車に乗らないと生活出来ないという問題についてなんですが、前橋市の交通手段の支援というのは「マイタク」というタクシーの補助であったり、バスの移動についても高齢者の方にはバスの割引というのをやったりして、車が無くても生活できるようにしていこうと取り組んでいるんですけども、実際にはバスに今まで乗ったことがないから「乗る」ということが浮かばない方が多いと思います。なので、バスに乗る体験というのをしてもらうことが大事なことであって、バスの学生

の割引だとか、通学の半額補助というのを始めるんですけれども、若い頃からバスに乗るのが当たり前、バスに乗ったことがあるとなれば、社会人・高齢になっても当たり前に乗れるようになってくると思うので、まずその若い人たちにもバスを使ってもらいたいというのがあります。

同じように高齢の方にも、バスがあっても車の方が便利だから車に乗っちゃう方が多いと思うんですけど、皆でバスに乗ってみようという機会を増やせるといいかなと思っています。これは地域の取り組みになりますけど、例えば富士見地区にはコミュニティバスという地域を回るデマンドバスが通っているんですけど、やっぱり乗ったことがない人だと使い方が分からないので、予約の仕方とか皆でバスに乗ってここまで行ってみようというのを自治会の方がやってくれている事例もありまして、そういうのを段々増やしていくことで年配の方もバスに気軽に乗れるような仕組みを作っていけたらなと思っています。車に関しては、100m先のコンビニに行くにも車を使っちゃうという方が多い県民だと言われてるので、バスに乗る、または元気なうちは歩くというのを地道に推奨していきたいと考えています。なので皆さん、歩ける方は歩いて、バスに乗れる方は乗ってみてください。さらにできる方は友達を誘ってバスに乗ってみようよというのが増えていくといいのかなと思っています。どうもありがとうございました。

参加者 4) ①手話言語条例 10 年目を記念するイベントの支援について

②市役所窓口の手話対応について

前橋市手話言語条例というのが 10 年目になりました。来年にそのイベントをするのに予算をつけて頂きたいと思っています。理由は耳が聞こえる人と一緒に、耳が聞こえない人のことの理解を広めたいと思っています。もう一点、市役所には手話通訳ができる人がおらず、筆談が苦手な人もいたので、そうするとなかなか会話が成り立たないということがあります。専門用語が分かりにくかったりすることもあるので、手話通訳者の設置をお願いしたいと思っています。

市長)

ありがとうございます。前橋市は手話言語条例というのを作っています。そしてそれが 10 年を迎えるということで、手話のイベントを来年にやるということになりますかね。是非みなさんにも参加して頂いて、手話を広げるイベントを増やして行きたいと思います。市の予算ももちろんなんですけど、こういうところに企業の方だとか色々協力して頂いて、皆で普及していくということが大切になりますので、そういう皆で関わられるような仕組みも協会の皆さんと一緒に考えていけたらと思います。

余談になりますけど、先日バリアフリー散歩というのを前橋の街中で実施していただきまして、これは車椅子の方、聴覚障がいの方、視覚障がいの方が一般の方と一緒に前橋の街中をお散歩しようという企画だったんですけども一緒にいてみると、なんてことない坂が車椅子の人は通るのが大変だったり、あとは盲導犬が入れるお店と入れないお店があったり、聴覚障がいの方がコミュニケーションボードが置いてあるとコミュニケーションが取れるんですけど、それを置いてもらえますかと一緒になってお願いするという企画がありました。やはり当事者の方と支援者だけじゃなくて、民間の方にも協力していただくと非常に行ける場所が増えるし、皆が一緒に楽しめる街に繋がっていくので本当に多くの皆さんに協力して頂いて、手話の普及もそうですし、バリアフリーなまちづくりを進めていけたらと思います。

参加者 5) ①総合計画に掲げた観光入込客数の目標値について

②地域おこし協力隊の取組について

先ほど総合計画の話があって、100 ページほどあったんですけど一応読み込んで、パブリックコメントも返しました。それで、市の方の担当者からも回答をいただきました。参加者の皆さんほとんど見ていないということなので、改めて周知も含めての質問ですけども、赤城山頂及び赤城南麓 7 施設の観光入込客数と、道の駅まえばし赤城の年間来場者数の合計の目標数値、2027 年に 479 万人という目標なんですけど、2023 年に比べて 112 万人も減っているんですね。目標自体がすでにクリアしているのに、2027 年は低い目標を設定しているというのはどうも腑に落ちないんです。道の駅が非常に好調だったのでその分あっという間に目標値に達したという結果なんだろうけども、ただ観光政策課とか、観光コンベンション協会の人たちはその目標に向かって走る訳ですから、あまり低い目標で設定してもなんとかしようという知恵が生まれてこないと思います。ですので、先程市長が言った通り来年には八次の総合計画を練り直すということで、その時には数字をもっと高めないで、知恵が生まれないと思います。

もう一つは今年4月に地域おこし協力隊で32歳の男性が新しく任命されましたけども、移住促進の体験会をやりたいということで私、彼とお話したんですけども、来季には始めたいと仰ってましたが、来季とは言わずに下期から始めてほしいと言いました。それについて、僕らが出来ることは応援するし、皆を巻き込んでやっていこうと言いましたので、市長と市のほうも全面的にバックアップするような形で進めていただけたらと思います。よろしくお願いします。

市長)

ありがとうございました。総合計画の指標については、10年前に作ったそもそもの指標自体も観光入込だけじゃなくて、他の指標もこれが今の前橋の状況になってるのかなというのをもたくさんあると思うので、これから先、第八次を作る時にはそもそもの定める目標についてもこの聞き方がいいのかとか、この目標を追っていくことが本当に目的達成につながるのかというのを丁寧に見ていきたいと思っています。赤城の南麓については、仰っていただいたように道の駅が2023年にオープンしまして、すごい人が来ているんです。なので、その数字だけ見るとかなり人数は多くなっているんですけども、ただ一方で今フラワーパークがまだリニューアル中であったり赤城の山頂もですね、工事をしているということもあって、そういった状況が変わってくると人数も一気に変動してくると思うんですけども、なかなか平均的なところの数値が読みにくいというのもあって、今の段階では数値目標はそういう形になっているんですが、今後については観光課にも攻めの観光を作っていこうということで話をしているので、これから先の目標については改めて数値目標を出させていただけたらなど、第八次に向けて考えさせていただけたらなどと思っています。

移住の関係は、前橋も移住相談増えておりまして、特に赤城の南面の富士見とか宮城とかに住みたいと家を探してる方もたくさんいると思いますので、そういった方々にですね、相談会を是非やってもらいたいなと思います。私の方からも改めて、地域おこしの方にも相談をしたいという風に思います。 どうもありがとうございました。

参加者6) ①都市計画の目玉政策について

②投票率の向上について

市長の発表にもありましたように人口減少が止まらない、2040年には30万人を切るのではないかということで、人口減少というのはデータで出てるように、これは止めようがないことだと思います。今年の初め頃に、群馬県の移住者希望というのが全国ランキングで1位になったと聞いてそれは素晴らしいなと思いました。ただ、高崎とか嬭恋とかじゃなくて、前橋に住みたいという人たちが増えればいいなと思っております。それで、もっとワクワクするような都市計画みたいなものがあるのであれば、お聞かせ願いたいと思いました。

宇都宮市で都市型交通、黄色い路面電車みたいなものを見た時に宇都宮すごいなと、進んでるなと思いました。前橋は高崎と比べてられてしまうことが多くて、高崎すごいな、でも前橋あんまりだなみたいな、別に勝ち負けはいらないんですけども、今住んでる所にもっとワクワクするような、すごい前橋というか、そういった目玉政策みたいなものがあったら、またはこれからあればいいなと期待してます。

もう1つ、投票率について今、すごく少ないということで、今年もけやきウォーク等の投票所を増やすということはあるですか。何年か前あれは衆議院の選挙だったと思うのですが、投票行った時に引換券でラーメンの替え玉一杯無料みたいなキャンペーンがあって、具体的な名前を出して悪いんですけど、高崎の一風堂さんで替え玉無料サービスいただいたことありました。4年ぐらい前だったと思います。最近、前橋に一風堂さん出来ましたよね。またそのような替え玉無料サービスみたいな、投票に行ったらラーメン一杯もらえるよみたいな、そういうので釣り上げるのは悪いんですけど、そんなのがあったら面白いなと思います、以上です。

市長)

ありがとうございました。先に投票率の方からなんですけれども、行政が投票に行ったら何かサービスしますよとか、投票行ったら何かあげますよ、というのは利益誘導にもなりますし、公平な選挙を実現する立場から、私たちはなかなかそういうのはできないんです。ただ、民間の方が投票割というので、そういう替え玉無料とかドリンクサービスとかというの

をやっているところはありますし、商店街とかでみんなで選挙割に取り組もうということで、地域を上げて民間ベースでやっているというのは事例も全国的にはあるので、それを私からは言えないんですけど。

司会)

けやきウォークは2階が投票所になってるじゃないですか。で、投票券がもらえるんです。投票しましたよという、それを持っていくとけやきウォークの中で賛同してくださった店舗の割引があったりするんですね。

市長)

民間でそういったものがじわじわ広まってくると、替え玉にも繋がっていくかなと思うので、皆で選挙割やろう、となってくるといいのかなと思います。

都市計画の関係では、例えば宇都宮市の駅前に降りると、ビルがいっぱい建ってて駅前も大きな道が通ってて、すごい都市だなという感じがします。高崎駅も新幹線降りると本当に大きな街になっていて、都会だなと感じる方がいると思うんですけども、私は前橋のまちづくりは目指すところがそこじゃないと思っていて、やっぱり前橋らしい、水と緑と詩の街と言われてるように、前橋の駅前のけやき並木が綺麗だねとか、広瀬川とか利根川とマッチした街がいいねという風に、そういう魅力が伝わる街を目指していくのが多分、前橋市民にとっても理想なのかなと思っています。

ただですね、大きい開発というようなビルがいっぱい建つという風にはしないんだけど、これから街中の再開発というところでは、前橋の図書館が街中に移りますよとか、新しい動きも出てきますし、今年の4月に新聞で発表されましたけれども、県と国と、県庁前から前橋駅までの通りを少し歩けるような通りにしようということで、新しいビジョンを今作っているところになりますので、そういったところは他県の方も注目していただいて、前橋の街が少し変わってくるんだねという風に、期待感が出てきてるのかなと思っています。

ただ、これもまだ案が出たばかりのところ、これから実際にどうやって作っていくのかとか、地域の皆さんの意見をどうやって盛り込んでいくのかというのはこれから始まるころなので、やっぱり多くの皆さんに関心を持っていただいて、クリエイティブシティの説明会とかにも今後、そういう場所も出てくると思うので参加していただいて、みんなで大事なものを作っていくことが必要かなと思っているので、そんな感じでやっていきたいと思います。どうもありがとうございました。

参加者 7) 国際交流やインバウンド向けのイベントについて

経済面のことで、先程住民の 3%、1 万人の外国人の方が住まわれているということで、インバウンドを獲得しなくてはいけない、観光産業につながると思うんですけど、経済を活性化させるのに、色々な問題やお金をかけないとならない面もあると思いますが、この 1 万人の外国籍の方の力を借りて、流動人口を増やしてですね、なんとか前橋に人が来て頂いて、来て頂いた外国人が何かイベントに参加してもらい、前橋に魅力を感じて移住してもらうというような理想を、皆さんの話を聞いて思いました。

台湾関連のイベントをひとつ説明していただいたんですけども、今後台湾とかそれ以外で、外国人の方との交流、海外のイベントの予定とか、構想があれば教えていただきたいなと思います。

市長)

ありがとうございます。外国人の方との交流というのが、前橋市は歴史的に台湾の皆さんとの繋がりが深いということで、台湾との交流をこれからどんどん増やしていこうと考えています。日本が統治していた時の最後の台南市長が富士見の出身の方だったということで、私も 1 月に台南市に行ったんですけども、「前橋から来たんです」と言うと、「羽鳥又男さんのところですね」ということで、羽鳥さん、当時の市長のことをすごく知っていて、歓迎してくれているムードがありました。なのでそういった歴史的な繋がりのあるところはさらに深めていきたいなということで、毎年台湾フェアや、赤城の山頂で台湾のらんとん祭りとい

うのをやって、交流しているところになります。今年はそれに加えて、実際に台湾の旅行会社の方に来ていただいて、前橋とどういったツアーを組めるかなというのも一緒に作っていきましょうということで、さらに増やしていこうと思っています。

それ以外にも、前橋は姉妹都市、友好都市というのがありまして、アメリカのバーミングハムという街と、イタリアのオルビエートという街が姉妹都市になっています。そちらからもですね毎年、バーミングハムの方が前橋に来て、赤城の大沼のマラソンを走ったりだとかするので、また前橋に来てもらうような機会は今後も増やしていきたいと思っています。今なかなか活用ができていないのは、ミシュラン都市ネットワークという国際グループに前橋市は入っているんですけども、ミシュランネットワークに入っている都市の皆さんとの交流を作っていくというところはまだできていないので、何か交流できるものは増やせたらいいなと考えているところになります。

他にもいろんな国の方とですね、前橋は交流持ったり、行き来が増えるといろんな可能性が広がって、それがビジネスに繋がったり、地域の活性化にも繋がってくるので、なんかきっかけがあればぜひ皆さんからもですね、こういう国と繋がったらどうかとか、教えてもらえると、またヒントになるのでよろしく願いいたします。 どうもありがとうございました。

参加者 8) 前橋市と他自治体の違いについて

こうやってダイレクトに質問をさせていただく機会はないので抽象的な質問を 2 点、させていただきたいと思います。1 点目が全国的に少子高齢化が進み、特に少子化がまずいと思ってるんですけども、前橋市で困っていることは、他の地域でも同じように困ってることなのかなという風に思ってます。その中で前橋市は上手くいっているのにも関わらず、他の地域では上手くいってないこと、または、前橋市で上手くいってないけど、他の市では上手くいっているという事例と、それはなぜかというところがあれば教えていただきたいと思います。

市長)

ありがとうございます。かなり難しい質問ですね。そうですね、実際の規模の違いというのは結構あると思います。例えば少子化対策、子育ての支援も子供の数が少ないところと言うのですか、本当に大雑把にですけど、例えば町とか村とか小規模な自治体の方がやっぱり手厚く、やりやすいのはあると思います。前橋市は中核市で、30万人を超える人がいて、子供の数も一定数いるので、例えば給食費の無償化をしますと言うと、それだけで14億かかってくるので、やっぱり何かやろうと思うと前橋の場合は全体をやるのに費用がかかってくるってのは、小回りの効く自治体の方がやりやすいところがあるのかもしれないというのがあります。

前橋で上手くいってて、他の地域で上手くいってないことというのも結構ある気がするけど、それを言ってしまうと色々な軋轢が生まれたりするかもしれないからどうですかね。でも、前橋市は子育てはしやすいということで言われていまして、特に住環境がやっぱり整っているというのは大きいと思います。これは直接の行政の取り組みとは違うかもしれないですけど、公園がいっぱいあって子供を遊ばせる場所がたくさんあるとか、児童文化センターも他の地域の建物に比べるとすごく中身が充実していたり、元気21の中のプレイルームと子供図書館もやっぱりあのような施設があるのは前橋市羨ましいねという風に言われますし、去年タウンミーティングをやっている中で高校生から言われたんですけども、他の地域から前橋の学校に通っている子からですね、前橋市は高校生学習室があって羨ましいという風に言われました。うちの自治体にはそういうのがないので、高校生の居場所を作ってもらえるのは羨ましいですと言われたこともあって、やっぱそういうところはですね、なるべく子育て世代の声を聞いたり、当事者の声を聞いて居場所を作っているというのは、前橋の魅力の一つかなという風に思っています。

参加者9) ①投票率の向上について

②前橋の活性化策について

③少子化対策について

④健康増進（歯科検診）について

1 つは投票率について私の意見です。投票日は必ず何月何日と書いてありますが、皆さん

期日前投票は投票日に用事がないと行っちゃダメなのかなという雰囲気もあると思うので、期日前投票の日から投票日までの日付を入れて、最終日は何日といった風なポスターにする
と良いのかなと思いました。

それから2つ目なんですけど、県庁所在地の前橋が活性化するために、外国では駅ピアノ
とかコミュニティ広場にピアノが置いてあって、自由に弾いてもらうような、そんなのも前
橋駅のところに、廃校になった学校からピアノを頂いて、そういうのもいいかなと思います。

あと、少子化対策の件で、とにかく結婚してもらわないと子供はできないので、私として
は結婚するとこんな良いことがあるよ、子供が生まれてこんな良いことがあるよ、という明
るいメッセージをいただいて、それを皆さんに読んでいただいたり、結婚された方々にちょ
っぴりプレゼントというのはどうかななんて思いました。

それと3つ目なんですけど、健康寿命の増進の関係で、歯科検診は60歳以上の方は5年
ごとじゃなくて毎年受けていただくとか、健康は口からと仰ってましたが、そういう歯の健
康も考えていただければと思います。

市長)

ありがとうございました。投票日は、毎日が投票日という風に、言った方が投票しやすく
なるということですかね。周知の仕方を選挙管理委員会に相談したいと思います。また、駅
ピアノは駅と元気21のホールというか2階のところですかね、フリースペースのところに
ピアノが置いてあって結構弾いてくれている方もいるので、皆さんに使ってもらえるとい
いかなと思います。

結婚お祝いはですね、お祝いのものが出せるかどうかは分からないんですけども、結婚
して、こんな良いことがありましたよとか、良かったことを伝えていくというのは大切な
かなと思う一方で、結婚しない方とか、いろんな選択肢があるということも大切なので、そ
こはどちらも大事な選択だよというのが尊重されることが重要だと思っていますので、結婚
してもこんな良いことあるよね、独身でもこんな良いことがあるよねというのが両方伝わっ

て、結婚したい人は結婚して子供を持ちたい人は子供を持てるというようなサポートができることがすごく大事なかなという風に思っています。ぜひいろんなところで結婚してこんな良かったよと、PRしてもらおうといいなと思います。

最後に健康寿命ですけれども、健康で長生きしてもらおうというのは一番重要だと思います。前橋はアクティブシニアが多いという風に言われていますけれども、健康を注意していただくということも大切なので、検診を受けてもらうだとか、声を出したり、歌を歌ったり、歯と口腔の健康というのは大事なので、そういうところも1人1人で気をつけていただけると嬉しいなと思います。

ちなみに、去年のタウンミーティングの時に介護保険使わない人には割引してもいいんじゃないかという質問していただきまして、なかなか行政は割引はできないんですけれども、その質問を聞いていた市議員の方が議会でも、健康ポイントのようなもっと統一したものを作れないかというのをタウンミーティングを聞いて質問してくださった議員さんもおりまして、皆さんの意見がそうやって、私たちもそうですし、議会の皆さんにも取り上げてもらっているという事なので、今後も色々と発言していただけるとありがたいなと思います。どうもありがとうございました。

参加者10) 自転車の通行スペースについて

私は前橋市内の高校に通う高校生なんですけども、そこでの通学路で困ったことがあって、学校での自転車通学の仕方として、歩道の外を走りなさいと言われているんですけども、歩道の外の白線の内側が自転車で走るにしては狭すぎるかなと思っています。

市長)

ありがとうございます。自転車の走行空間というのは、以前は自転車は歩道を通るのが当たり前だったんですが、道交法が変わってから、自転車は軽車両なので原則、車道を通るという風になりました。それに伴って、今まで歩道を通ったことが多かったけれども、自転車は基本的には車道の一番左側を通って下さいという風になっていて、ただ元々

そういう風に道路を作っていないので、当然そこに自転車が通る場所を白線引いたり、矢羽根をつけたりしてるんですけど、元々スペースがないところに後からつけているので、自転車の通るスペースが狭いなという風になっていることがあります。

本来は歩行者が一番優先、次は自転車の走行の空間があるならそこを自転車が安心して通れて、車が一番遠慮しなきゃいけないんですけど、車乗ってる人は自転車邪魔だなどと思いながら運転してる人が多くてですね、なかなかそこがお互い、安心して通れる空間じゃないのかなという風な現状はあると思います。で、新しく作ってる道路だとか、新規で整備してる場所については、しっかり自転車が通れるようなスペースを設けて整備はなるべくしてるんですけども、昔からある道路だったり、周りのお家がセットバックできないようなところについては、狭いところがあるので、ドライバーも自転車に優しい運転も心がけていただいて、なるべくプレッシャーをかけずに道路を通っていただくという意識を皆さんで持っていただくことが大事なのかなと思います。

で、高校生・中学生に関しては、自転車で毎日長距離通学していると事故の可能性が多くて、群馬は中学校・高校の自転車事故が日本一多いという風に言われているので、高校生も自転車じゃなくてバスで通学できる人はバスを使ってもらったらどうかなというので、今年はバスの半額補助というの也开始しますので、皆さんにも使ってもらえたらなと思います。今度の交通のタウンミーティングの時にも意見はいろいろいただけると嬉しいなと思います。今日は高校生の意見どうもありがとうございました。

参加者 1 1) GIGA スクール構想の成果や振り返りについて

スライドを見ていてちょっと気になったことがありました。投資計画の中の GIGA スクール構想について、私、小学生の息子がおりまして、毎日タブレットを持って帰ってきて何してるのかなと、遊んでるようにしか見えないなと見てて思ったりします。実際学校で色々な教材として使われてると思うんですけど、すごいお金がかかってますよね。GIGA スクール構想の成果とか振り返りとかというのは具体的に何か前橋市で把握していたりするんでしょうか。

市長)

ありがとうございます。GIGA スクールですけれども、ちょうどコロナ禍でなかなか学校に行けないというようなところと相まって、一気に全国で導入をされて、当時はオンラインで学習ができたとか、新しい学び、学びを止めないというところで、たまたまそういう時期と重なってスタートしています。

前橋市でもそれぞれの学校で子どもたちがタブレットを一台持って使っているんですけれども、例えばお互いの考えていることを共有したりだとか、今まで先生が書いた黒板とか生徒が黒板に行って書いたものしか見れなかったのが自分たちのタブレットで、考えた思考の過程とか、そういったものをお互いに映しあったりだとか、動画を撮って、例えば体育の授業とかはこうするんだよと教えるだけじゃなくて、自分たちで自分の動きの動画を撮って確認することで、今まで分からなかったことが視覚的にわかるような場面も出てきているので、いろんな活用が進んでいるところになります。ただ、学校によって何に使ってるのかというのは差がありますし、もっともっと有意義な活用の仕方もあると思いますので、今はそういう事例を溜めて共有して、子供たちのためにいい学習を作っていきたいということで使い始めているところになります。

今度また今のタブレットの更新、入れ替えをする時期が来年やってくるので、入れ替えに当たってはですね、次はこのパソコンを使って子どもたちにどういう学びをしてもらうとか、どういう能力を伸ばしたらいいのかというのをまた考えて、新しいセカンド GIGA というのを考えていきたいなと思います。今仰っていただいたように、家庭の中での事というのは我々も把握できないことがあるので、家に持って帰ってきて遊んでばかりで困りますという意見もたくさんもらえれば、学校の方には貴重な意見としてお伝えしたいなと思います。どうもありがとうございました。

参加者 1 2) 若い世代の市政参加について

先ほど高校生が発言してて、中学生、高校生、大学生はすごい意見持ってて、その意見は大事だと思っています。今ここに私らは集まってますけど、結局 10 年、20 年とかでリタイ

アするわけで、本当の主人公は若者なんじゃないかなと思って、去年から色々なタウンミーティングとかも若者の意見を聞いてということは増えてきてすごく良いなと思ってるんですけど、少し思っているのが、最後まで子供たちが考えてそれを行政として完結まで行くような取り組みができるといいなと思ってるんですね。そういったものは何かありませんか。

市長)

ありがとうございます。去年にですね、子ども基本条例をこれから作るというときに子ども家庭庁の方に来ていただいて、子どもまんなかシンポジウムというのを開催しました。その時に子ども家庭庁の方ともやり取りしていて、すごく言われたのが意見を聞くだけじゃなくて、ちゃんとその後、実現するところまでサポートするのが大事ですよとか、聞きました、でもフィードバックがありませんというのだと、やっぱり子どもたちは言った後の成功体験が繋がらないので、フィードバックまでしっかりしましょうということで、今やっています。

前橋市の取り組みの中では、子どもアイデアまちづくりプロジェクトというのをやっています、これは実際に子供たちからいろんな地域のまちづくりに関するプランを提案していただいて、採択されたプランには予算をつけて実際に実行してもらうというところまでやっています。それが毎年いろんな、街を綺麗にするゴミ拾いのイベントをやろうとか、前橋メダカをみんなに知ってもらいたいから、前橋メダカの普及活動をしようとか、子どもの視点で色々提案してもらったものを実現するというので、最後までやりきるというサポートをしていますし、先ほど見ていただいた子ども基本条例を作るところでも、ワークショップで意見を聞くだけでなく、条文の文章も自分たちで考えてもらって、高校生が考えた文章がそのまま前橋市の条例になるんだよというのを一緒に作ってもらいたいなと思って、それは明日から始まる取り組みになります。

もう一つ、高校生のタウンミーティングを去年やったときに、前橋市をPRする動画を高校生自身で作りたいという意見がありまして、それも実際に高校生にどんな動画を作ったらいいかというのを作ってもらって、ホームページに3本ですね、高校生が考えた前橋のPR動画が上がっているので、そういうものをどんどん増やしていきたいなと思ってます。

今日も発言してもらって大変ありがたいですし、子どもの話を聞くと子どもたちは意見いっぱい持ってます。そして、もっと大人から信用されたい、任せてもらいたいという風に思ってる子どもたちが非常に多いので、それは本当に私たちももっと子ども扱いではなくて、1 人の人間として若い世代にも向き合っていくことが大切だなと思っています。どうもありがとうございました。

以 上